追悼の辞

葬儀委員長　学校法人岩手医科大学　理事長・学長　小川　彰

学校法人岩手医科大学　名誉理事長・名誉学長　故大堀　勉先生の御霊前に学校法人岩手医科大学を代表して哀悼の誠を捧げ、謹んでお別れのご挨拶を申し上げます。

先生は、一昨年の八月から体調を崩され入退院を繰り返しておられました。この間、法人行事挙行の際には病室からご出席になられ、その都度、力強いご挨拶を頂戴しておりましたので、ご快癒も近いものと信じておりました。

しかし、やはりご無理をなさっておられたのでしょう。昨年八月、本学の同窓会である「圭陵会」総会にご出席になり、新装なった「大堀記念講堂」で力強いご挨拶をされたのが公式の場でお話しされた最後となりました。以降、入院治療が続いておりました。私ども教職員一同、一日も早いご快復を願っておりましただけに、誠に痛恨の極みであります。

六月七日は、大分ご気分もよろしかったのでしょう。お昼頃にはご家族、お孫さんと談笑されておりました。夕方になって急に血圧が下がり、ご家族が見守られる中、痛みや、苦しみもなく安らかに旅立って行かれました。懸命な介護を続けて来られたご家族皆様方の悲しみはいかばかりかとお察し申し上げる次第であります。

先生は昭和二十四年、本学をご卒業になり、その後、東京慈恵会医科大学の助手、講師を務められました。医学博士の学位は「尿路結石症の研究」でした。その後も「切らずに治す」治療法に取り組まれ、これが先生のライフワークの基礎となりました。昭和三十六年、母校にお戻りになり皮膚科・泌尿器科学講座の助教授に就任されました、昭和四十一年には、四十一歳の若さで泌尿器科学講座の初代教授に就任されました。爾来、二十七年にわたり、教授として活躍されました。患者さんにやさしい低侵襲治療を率先して実施し、昭和六十年には経皮的尿路結石除去術が高度先進医療の承認を受けるに至りました。さらに腎移植の普及にも尽力されました。教室では、多くの優秀な人材を育成しました。そして、地域医療の充実に奔走され、その功績は枚挙にいとまがありません。

昭和五十二年からは学生部長に就任され「啐啄同時」の教育理念の下、学生の人間的な成長、教育に情熱を注がれました。さらに、附属病院長、医学部長を歴任、そして、第七代学長に就任され、二期八年間にわたり「誠の人間を育成する」という建学の精神の下、教育・診療・研究の陣頭指揮を執っていただきました。

平成二年からは、実に二十一年余の長きにわたり本法人理事長をお勤めになりました。そして、卓越した経営手腕を発揮され、次々と新規事業に着手、大学の拡充発展に尽力されました。この間、附属花巻温泉病院を開院、北日本唯一の専門施設、附属循環器医療センターを開設されました。

そして、未来の生命科学に対応した教育・医療・研究を実現するため、建学以来の内

丸キャンパスから広大な新天地、矢巾地区への大学及び附属病院の総合移転という壮大な計画を策定されました。

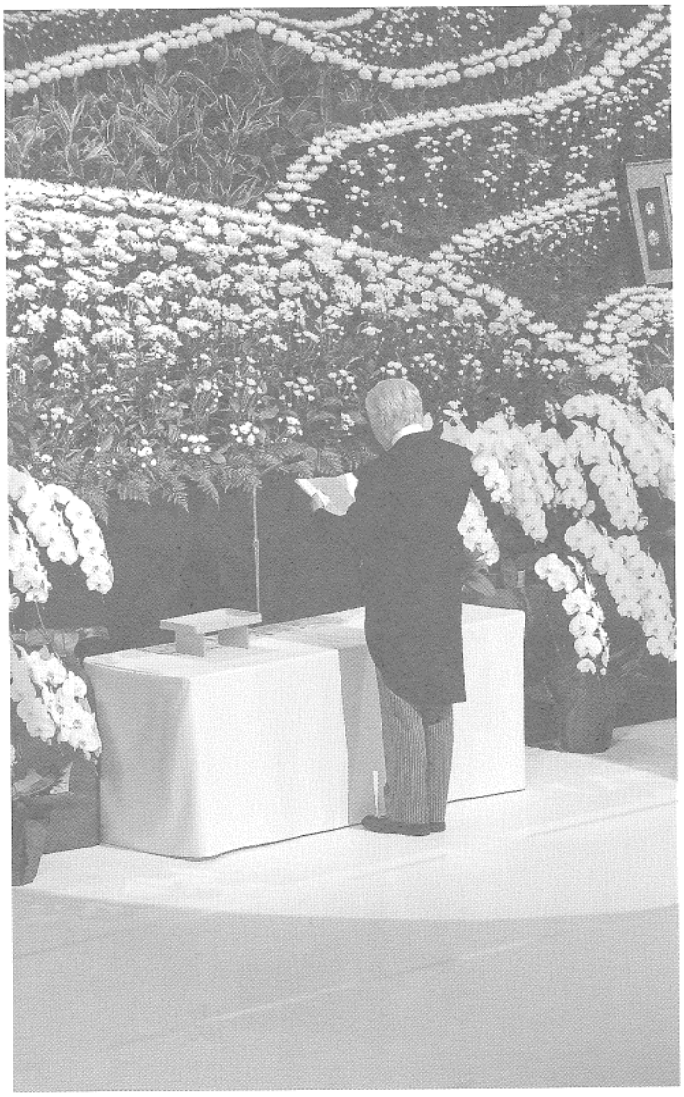
本事業は、本学の長い歴史上、最大の事業であり、教職員、関係者、県民全て一丸となって推進しなければ完遂できるものではないとしてその思いを「一座建立」の四文字に託し、その決意を示されました。

第一次事業として、広大な土地に矢巾キャンパスを開設、併せて薬学部を新設いたしました。昨年、第二次事業の校舎等新築工事が完了、医学部・歯学部の基礎講座が移転し、我が国で初めて医学部・歯学部・薬学部の医療系三学部が同一キャンパスで学ぶことのできる環境を整備し、名実ともに医療系総合大学となりました。

また、私をなげうって、教育と地域医療の充実に心血を注がれた数多くのご功績により、勲二等瑞宝章受章の栄誉に浴されました。他、岩手県勢功労者、盛岡市勢振興功労者、福島県会津坂下町名誉町民、福島県外在住功労者などを受賞されました。先生の高い見識、熱い情熱、真摯な姿勢、深い人類愛に、改めて畏敬の念を禁じ得ません。そして、先生にご薫陶をいただくことができた僥倖に心から感謝申し上げる次第であります。

残すは、総合移転整備事業の総仕上げとなる附属病院の移転と内丸地区の再整備に着手するばかりでありました。新病院の雄姿を見ることなく幽明境を異にされ、さぞ無念であったことと拝察いたします。私どもは、先生のご遺志を継いで本事業を完遂し、岩手医科大学の発展と地域医療の更なる充実のために誠心誠意努力してまいることを御霊前にお誓い申し上げます。

先生、なごりは尽きませんが、お別れしなければなりません。



願わくば、天上より、先生が愛した岩手医科大学の今後の発展を常にお見守り頂き、本法人の前途にいささかも誤りなきようにお導き下さいますよう心からお願い申し上げます。

また、ご遺族に対して末永く厚いご加護を賜りますようお願い申し上げます。

ここに先生のご遺徳を偲びつつ、在天の御霊の安らかならんことをお祈り申し上げ、追悼の言葉といたします。

弔辞

岩手医科大学同窓会　圭陵会・会長　岩手県医師会・会長　石川育成

岩手医科大学名誉理事長・名誉学長、同窓会圭陵会顧問、岩手県医師会顧問　故大堀　勉先生の御霊の前に、圭陵会、並びに岩手県医師会を代表して謹んで哀悼の誠を捧げます。

「巨星墜つ」。大堀　勉先生のご逝去に最も相応しい響きを感じます。

長い闘病生活を強いられながらも、一言も弱音を吐かず、まさに大病との死闘でありました。最後は刀折れ矢尽きてしまいましたが、病に敢然として立ち向かう医師としての大往生だと思っております。

五月二十二日、ご長男から今日は具合がいい様だとお電話を頂きました。岩手医大ＩＣＵでの僅かな時間ではありましたが、私の手を力強く握り、笑顔を絶やすことなく会話が出来ました。私にとって貴重なひと時であり、示唆に富む一言一言を克明に覚えております。あれから十六日目に残念ながら幽明境を異にしてしまいました。

先生は岩手医学専門学校を卒業後、慈恵医科大学泌尿器科学講座の講師、医局長をつとめるなど研鑽を積まれ、昭和三十五年に母校の泌尿器科学講座助教授として着任し、四十一年教授に昇進されて多くの優秀な泌尿器科医を育て、教室の発展に大きく貢献されたことは誰しもが認めているところであります。

先生が母校に戻られた直後から、第二外科講座の医局員だった私は、何かと目をかけて頂きました。公私共にお世話になり、ご指導頂きましたことに改めて心から感謝を申し上げます。

医師会活動にもご熱心で、岩手県医師会の顧問を勤めるなど大所高所からの数々のご助言を頂きました。また、「大学も早く医師会を設置すべき」が持論でありましたし、大学医師会設置後自ら会長職を担うなど積極的に活動されました。

先生は表彰、受賞も数多く、主なものだけでも平成九年の岩手県勢功労者顕彰、十二年には勲二等瑞宝章、また盛岡市勢振興功労者表彰、福島県会津坂下町名誉町民推戴、福島県外在住功労者知事表彰など、先生の多方面に亘るご活躍の為せるものでありましょう。

先生が自ら主導した矢巾キャンパス構想の「総合移転整備計画第二次事業」も完成し、矢巾キャンパスで医学部、歯学部、薬学部の三学部が一つになって教育、研究が始まっております。これは日本で初めてのことであり、来年三月には薬学部第一回卒業生が輩出されます。

また、本年度は災害医学講座の開設、災害時地域医療支援教育センターの建設、ドクターヘリの本格運航、そして附属病院移転、内丸メディカルセンター整備事業と大事業が続きます。

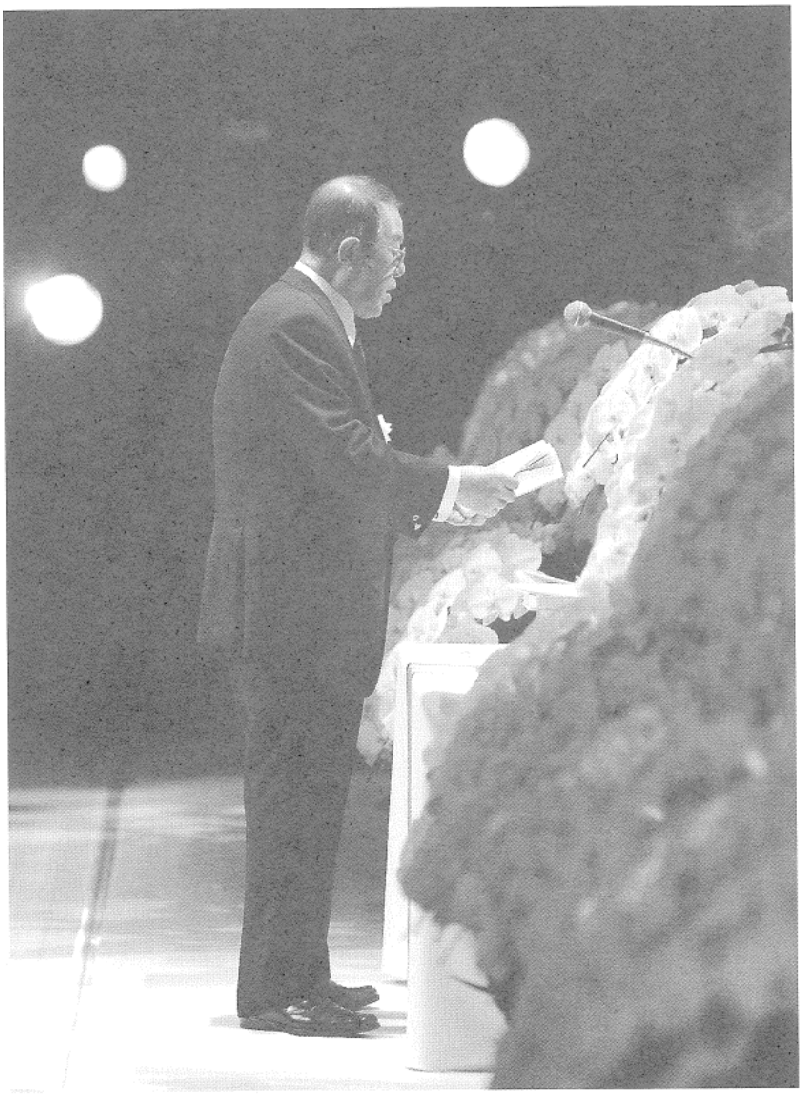
昨年の同窓会圭陵会の代議員会と総会は新しい「大堀記念講堂」で開催されました。体調が優れず、主治医の反対を押し切って車椅子で出席してご挨拶され、出席代議員のお帰りを講堂の外で一人ひとりと「あり

がとう、ありがとう」と感謝の固い握手をしながら見送られた姿が思い出されます。

今年は残念ながら、同じ大堀記念講堂で代議員各位に先生のご逝去を報告する事になってしまいました。

先生の生涯唯一の夢を描いた矢巾キャンパス構想も逐次計画通りに進捗しております。この大事業の最終章を一日でも早く瞼に焼き付けたかったであろう先生の無念の胸中を察するとき、世の無常を感じざるを得ません。

今後は小川　彰理事長・学長を中心に、大堀構想の最終章を一日も早くご報告できますよう関係各位と力を一つにして頑張ってまいります。どうぞ見守って下さい。

お名残は尽きません。今は唯、先生の天涯における日々がいつまでも安らかであることを念じ申し上げ、ご遺族に対する末長いご加護を賜りますようお願いし、ご冥福をお祈りしながらお別れ致します。

長い闘病生活でお疲れのお体をゆっくり休めて下さい。先生、さようなら。合掌。